
お湯を かけてから三年

あゆみかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お湯を かけてから三年

【Nコード】

N6383C

【作者名】

あゆみかん

【あらすじ】

■【? / コメディ? / 短編】 ■ 舗道に空いた穴と僕。 そんな話。

コンクリートに あいた穴を見つけた。

街中にある月極の駐車場……の前の舗道。くぼみだと思っていたら、小さな直径三センチくらいの穴だった。近づいてみて、初めてわかった。

僕は非常に気になった。穴の先は見えない。

「何か根性と名の付く物が引っこ抜かれた跡だろうか。それとも、柱でも立っていたのだろうか？ ……いや、それは無いな。こんな駐車場の入り口で……いやでも、元は あって、邪魔だから撤去されたとか。ブツブツ」

と、コンビ二帰りの僕は腕を組んで、僕なりに推理していた。

ちなみに、もうすぐ受験日。

たまには勉強組から脱線したいのさあ。

「何か居たりして。へビとか」

そんな事を思いついた。そして さらに思いついた。

「水を かけたら、溺れるかな」

昔、アリの行列に×××××を かけた事がある。もちろん今はそんな事は しない。たぶん。

僕は手に持っていたコンビ二袋から、買ってきたばかりの缶飲料を取り出した。

新商品！ 『ホット・ウォーター』！！

……ただの、お湯。売り文句にダマサレタ。

「やってみよう」

僕はフタを開け、お湯を穴に注いだ。

すぐに溢れてくるだろうと思っていたのに、なかなか液体が見えてこない。……思ったよりも深い??

缶のお湯、すべて無くなってしまった。

……そしてジツと待つ。

………

………?

………

何も起きない。

「ちえっ」

僕は舌打ちして、立ち上がって去った。

あれから三年。

僕は高校に受かってから家を離れていて、しばらくぶりに家へ帰ってきた。そしてしばらくぶりに、あまり変わりのない近所を歩く。やはりコンビニ帰り。袋を一つ提げていた。

月極の駐車場の前を通りがかる。そして入り口付近にある穴に注目する。

「ああ……そういえば」

僕は思い出していた。この穴に お湯を注いだんだっけ。意味不明な事したなあ。

穴を覗き込んでみる。穴の先は わからない。

「気になるけどなあ……。ブツブツ」

きつと僕は疲れている。

ちなみに、もうすぐ受験日。ああ脱線したい。

「うーん。気晴らしに」

と、ゴソゴソとコンビニ袋から、買ってきたばかりのペットボトル飲料を取り出した。

新発売！ 『奇跡のウォーター』！！

……ミラクルとミネラルを かけているの、か？ ……

「やってみるか」

僕はフタを開け、『奇跡の……』 〃要するに水、を穴に注いだ。
500ミリリットルあったはずだが、すべて注ぎきってしまった。
どれだけ深いんだ この穴。

……少し待つ。

そうしたら、しわがれた声がした。

「冷た」

……

……ええ？

僕は絶対、風の音かと思った。それかカラスの声とか。少なくとも、幻聴にも近いもの。

ハハハハハ！ まさか！！ こんな穴から声が？

「誰か居るんですか？」

と、とても馬鹿にして穴に呼びかけた。答えが返ってくるわけがない。そう思っていたのに……。

「ここに住んでいる事は、秘密にしておいてくれ」

……返答がきた。

僕は言葉の意味そっちのけで、立ち上がって家へと走り出した。とても素早かった。

家に帰ってすぐ布団にくるまって寝た。電灯は つけっ放した。

……

あれから、さらに三年。

僕は大学に受かってから都会に暮らしていたのだが、しばらくぶりに家へ帰ってきた。今度、バイトの面接がある。履歴書を買いにコンビニへ行き、その帰りに突然、身の毛が立った。

月極の駐車場。の、数メートル手前で立ち止まる。

以前と ちつとも変わってない この風景。

穴も……。

そこに、ある。

……何かが、住んでいるらしい……。

僕は、いろんな事を想像してきた。あの下には地下王国があつて、

地底人が いるんでないだろうか？ とか、僕が お湯を始めにかけた事でドライフリーズされていた魔物が復活したんでないだろうか？ とか……。

……僕は、疲れている。

コンビニの袋の中には、缶ビールが入って……いた。

《END》

（後書き）

【あとがき】

手を突っ込む勇気が欲しい時があります。

ご意見・ご感想ありましたら、お願いします。

本作品は、読者様のご指摘により加筆・修正をしています。
（

H19・11・6・）

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6383c/>

お湯を かけてから三年

2010年10月17日09時14分発行